

令和5年度 上婦負ケーブルテレビ 放送番組審議会

1. 開催日時

2024年2月15日(木) 午後6時より

2. 開催場所

富山市婦中町羽根 827-1 上婦負ケーブルテレビ株式会社

3. 出席委員 (敬称略)

委員長

山口吉弘 (速星地区ふるさとづくり推進協議会 会長)

委員

山田政夫 (古里自治振興会 会長)

野中明 (鶴坂地区ふるさとづくり推進協議会 会長)

上島進 (宮川地区ふるさとづくり推進協議会 会長)

坂川智幸 (富山市朝日公民館主事)

浅野政季 (神保地区ふるさとづくり推進協議会 副会長)

山田憲彰 (山田地域自治会 会長)

欠席委員(敬称略)

西島清一 (婦中熊野地区ふるさとづくり推進協議会 会長)

平野利彦 (音川地区ふるさとづくり推進協議会 会長)

上婦負ケーブルテレビ出席者

竹内茂 代表取締役社長

井林孝仁 取締役 営業・工事技術部部長

小林拓郎 営業・制作部次長

井城将志 営業・制作部課長

4. 主な意見

- ・災害時には主にスマホから情報を取得すると思うが、高齢者にとっては操作が難しい。使い方を覚え、災害時の安否確認などに利用するために、高齢者向きのスマホ教室を開催してはどうか。
- ・ホームページのライブカメラは、道路の積雪状況などを常に視認するためのものだと思うが、092チャンネルで放送されている牛岳温泉スキー場の様子も、常に確認出来ると助かる。
- ・神保地区には防災組織があるのだが、ほぼ機能していない。他地区の防災に関する取り組みをコミュニティ放送してもらえると参考になるし、励みになるので助かる。
- ・全国のケーブルテレビ番組と比べて、上婦負ケーブルテレビの番組に動きがないと感じる。四国にあるケーブルテレビを訪れた時にケーブルテレビの役目とは、「地域の笑顔を届ける事が役目」と聞いたこ

とがある。イベントを放送する際、ステージ内容ばかりにとらわれず、訪れた子供達を一人ひとり映して放送してはどうか。

- ・学習発表会の放送を見るとステージの子ども達のほかにも、子ども達の活動を見ている保護者も映している場面もあり、地域住民の顔が見える番組となっていた。
- ・各種イベントを開催する度に取材に来てもらい、感謝している。主催者側としては中々把握できない参加者の感想を、コミュニティ放送を通して聞いており助かっている。放送基準に則り、様々な制約や限られた時間の中で、地域の目となり耳となって、急な取材依頼にも対応してもらっている。
- ・正月特番「KCT 週刊トピックス+」を見ると、1年間を振り返る事が出来た。
- ・山田地域は、地域 ICT プラットフォーム型アプリ「結ネット」を 2024 年 4 月から本運用する。今後は、地域行事やケーブルテレビの放送日時なども結ネットを用いて、各家庭にお知らせする予定。
- ・正月特番「KCT 週刊トピックス+」は、端的にまとまっていた。
- ・獅子舞収録などイベント収録時では、事前に打ち合わせが出来たらより良い番組作りに協力できると思う。
- ・速星中学校で PTA が主催する「放課後 café」が開催されているので、取材してみてもどうか。
- ・自主防災として、大型台風や線状降水帯の影響を受けてからは、山田川と井田川の定点カメラを必ずチェックしている。古里地区では、水害が発生すると下流の朝日地区にも被害が及ぶので、山田川水系の朝日地区や山田地区の各地区代表らと、緊急連絡網を作成している。
- ・能登半島地震後には、避難所の様子を富山市自治振興連絡協議会に提出した。その際に一番の問題として取り上げたのが、避難所の体育館にテレビが設置されていなかった点である。情報を取得する手段として、ラジオ放送だけでは不十分であり、視覚情報として、地域情報を扱うケーブルテレビ放送導入の必要性を感じている。平成 29 年の台風被害の時点で、婦中地域自治振興連絡協議会として、市に要望しているが実現されていない。
- ・コミュニティ放送については、古里小学校 150 周年記念に関わる行事を全て収録していただき、感謝している。放送してもらった関連番組は、記念誌に番組表と共に保存し、永久に残していきたい。今後もケーブルテレビと古里地区で協力しながら、何事も進めていきたい。
- ・速星地区ふるさとづくり協議会がコロナ禍に始めた「フードドライブ」事業では、初年度からコミュニティ放送で告知と取材をしてもらったが、大変効果があり他の地区からも大勢参加してもらえた。婦中・山田地域に向けた PR には、ケーブルテレビの反応が良いと感じる。地域行事をケーブルテレビに取材・放送してもらえると地域や主催者側も元気になる。地域のコミュニティ放送が連帯感の醸成に関わっていると感じている。

以上